



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |

かけはし

氷見

KAKEHASHI



患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL

TOPICS ● トピックス

第10回 地域医療懇談会



黒部峡谷トロッコ電車と宇奈月駅からの新山彦橋

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 第10回 地域医療懇談会	P.01
川上先生の診察室から	P.03
診療コラム	P.04
平成29年度 健康づくり教室	P.05
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



第10回

金沢医科大学氷見市民病院 地域医療懇談会



会場の様子

平成29年10月7日(土)午後6時から、第10回金沢医科大学氷見市民病院地域医療懇談会が、ホテルニューオータニ高岡にて開催されました。この会は、県内開業医の先生方

や医療・介護施設関係の方々との連携を深めることを目的に毎年行われ、今年で10回目となります。今回は富山県内、七尾市から医科、歯科の院長先生や施設関係者の方など33名にご出席いただきました。また、当院からは川上重彦最高経営責任者をはじめ病院長、診療科長など39名が出席しました。

懇談会では、はじめに齋藤人志病院長から、「最近の病院運営は、2025年問題や地域医療構想、7対1看護の維持など問題点が多い中で、氷見市の医療を守る中核病院として日々業務を行っています

が、その中で開業医の先生方と連携し良い医療を提供できるように努めていきたいと考えています。」と挨拶がありました。引き続き、この一年間の当院の実績、行事等の報告と、病院の役職者、新たに着任した医師の紹介がありました。次に、高田久副院長を座長に「診療紹介」が行われ、最新の治療法や治療の実際

として事例をあげて紹介されました。

第1講演は、最高経営責任者・形成外科 川上重彦教授から「高齢化社会における形成外科の役割」と題して講演があり、形成外科の紹介として、「形成外科は主に造形と再建外科と言われ、身体の表面に生まれつきまたはその後起きた機能形態の異常を外



高田久副院長



川上重彦最高経営責任者



科的治療法を用いて再建することや、皮膚の傷を診る専門医として認知されている」と説明がされました。また金沢医科大学の形成外科の紹介もあり、治療の中で最も多い先天異常の唇顎口蓋裂の治療法の説明がされました。その他、乳房再建術や頭頸部腫瘍後再建(食道再建)術についても詳しく説明されました。また、



笠巻祐二教授

最近では高齢者を対象としたアンチエイジングが注目されており、その中でも「腱膜性眼瞼下垂症」について詳しく説明され、頭痛や肩こりの原因にもなっているが治療することで症状が改善されることが報告されました。

続いて第2講演は、総合診療科 笠巻祐二教授から「心エコーの臨床的有用性と技術進歩〜リアルタイム3D心エコー法の活用〜」と題して講演があり、初めに総合診療科の紹介として、「総合診療科の特徴として、疾患に偏らず総合的な診療、全人的医療を行っている。患者さんの心理

的、社会的背景までをトータル的に診療を行っている」との説明がありました。今回は心臓超音波学について講演があり、心臓超音波の2D心エコーの問題点と3D心エコーの現状、そして3D、4D心エコーで疾患を診ることについて詳しく説明がありました。また、心エコーの利点や欠点そして今後リアルタイム3D、4Dに期待されることが報告されました。

懇談会終了後は、川上重彦最高経営責任者の開会挨拶の後、氷見市医師会高木義則会長のご発声で乾杯され懇親会が開催されました。高木会長から「高齢化が著しく進んでいる中で在宅医療の必要性を進められているが、中核病院としての氷見市民病院と開業医の先生方が連携を取りながら、今後も協力し氷見市の地域医療を守っていききたい。」



高木義則会長

とのお言葉をいただきました。その後は終始和やかに懇談があり、出席された方々の親睦が深まり、最後に福田昭宏副院長から閉会の挨拶により盛会に終了となりました。

今後も氷見市の中核病院として各医療機関や施設の皆様との連携を深めながら、地域医療に貢献していききたいと思えます。



川上先生の
診察室から

形成外科
教授

川上
重彦

SHIGEHIKO
KAWAKAMI

平

成29年4月から、金沢医科大学氷見市民病院最高経営責任者として赴任し、併せて形成外科の診療も担当することになりました。宜しくお願いいたします。

氷見市民病院において、形成外科の診療はこれまで非常勤医が週1、2回行ってきました。診療が開始されたのは30年ほど前からなので歴史はあるのですが、まだまだ「形成外科」がどんな患者さんを治療するのか知られていないようにも思いますので、この紙面を借りてご紹介いたします。

形成外科とは「生活の質を考慮に入れて治療を行う外科」と言い換えることが出来ます。従来の外科では患者さんの体にできた悪い物を取れば治療は終わり、となっていました。すなわち、その手術後に患者さんの体に生じた醜形や体の機能がどれだけ損なわれようが、あまり省みられませんでした。

形成外科とは、その損なわれた形態や機能を出るだけ正常に復元して、患者さんが治療前後で変わりなく生活が送られるように治療することを目的とした外科ということが出来ます。例えば、乳癌でなくした乳房を再建したり、熱傷（ヤケド）や様々な手術の後に生じた皮膚の引きつれやケロイドを治療したりします。また、形態に異常をもって生まれてきた方（口唇口蓋裂や多指症など）の治療も行ってきました。最近では、このような治療の後遺症や先天的な形態異常を治療するだけではなく、外傷などの治療に最初から関わり、出来るだけ後遺症を残さない治療も担当しています。とくに、顔の切り傷や骨折、手・足のケガ（指の切断や腱損傷など）、熱傷、皮膚腫瘍の治療などを行っています。すなわち、形成外科医は皮膚に出来る傷を診る専門医と言う事ができま

す。そのため、褥瘡や下肢の難治性潰瘍の治療も担当するようになりました。ちなみに、キズを専門とする形成外科医の集まりである日本創傷外科学会が5月5日を「キズの日」と制定し国に登録いたしました。理由はおわかりかと思いません。

氷見市民病院では形成外科治療が対象となる全ての患者さんを診療いたします。現在、常勤医は私一人で、診療だけに専念することができないため、長時間を要する顕微鏡手術や手術後に集中管理が必要な患者さんの治療は担当できませんが、そのような場合でもご相談に乗り、適切な医療機関をご紹介いたします。また、形成外科の治療分野の一つである美容外科の治療についても遠慮なくご相談ください。

川上 重彦 ★ 略歴

【略歴】

- ◎1976年 3月 金沢大学医学部卒業
- ◎1976年 4月 金沢医科大学病院 形成外科 研修医
- ◎1987年 4月 金沢医科大学 形成外科学講座 講師
- ◎1992年 4月 金沢医科大学 形成外科学講座 助教授
- ◎1996年 3月 米国カリフォルニア大学ロサンゼルス校 形成外科 客員教授
- ◎1997年 4月 金沢医科大学 形成外科学講座 主任教授
- ◎2010年 10月 金沢医科大学病院 病院長(2014年3月迄)
- ◎2017年 4月 金沢医科大学 名誉教授
- ◎2017年 4月 金沢医科大学氷見市民病院 最高経営責任者(CEO)

【資格】

- ◎形成外科専門医
- ◎熱傷専門医
- ◎創傷外科専門医
- ◎褥瘡認定師(医師)



医療福祉相談室では外来や入院患者さんが地域や家庭で安心した生活をおくることができるよう、退院支援専従看護師と社会福祉士（ソーシャルワーカー）などの5人体制で様々な相談に対応しています。



医療福祉相談室入口

病気や怪我が治癒しても後遺症等により以前と同じ生活ができなくなる場合もあります。そこで私たちは患者さんや家族が病気を抱えながらも安心して暮らせるよう、医師や看護師、リハビリスタッフ、薬剤師、栄養



退院前合同カンファレンス風景

士などの医療職に加え外部の関係機関と連携をとりながら支援を行っています。

相談内容は「介護保険はどうやったら使えるのか」「今後介護が必要になりそうだがどうすればいいのか」「退院後の療養先をどのようにして選択していけば良いか」「ゆくゆくは施設入所も考えていきたいが、どのような施設があるのか」等があります。

また、この他いろいろな相談も承っていますので、お気軽に医療福祉相談室へおこしください。

このほか、新規事業として9月からは「ほっと♥カフェ」を行っています。毎月5日、20日の午前10時から11時に2階のレストランで開催しています。介護や在宅生活の中で不安なこと

など、どなたでも気軽に相談できる場です。

今後も病院と地域を繋ぐ窓口として、患者さんや家族が安心して暮らせるようお手伝いをさせていただきます。



ほっと♥カフェ 患者さんとの様子

平成29年度 健康づくり教室

平成29年度の第4・5回目となる健康づくり教室が当院6階多目的ホールにて開催されました。

【第4回】

9月16日(土)

演 題:「心臓を大切にしていますか?」

「静かに忍び寄る心臓発作に気付くために」

講師:副院長 循環器内科 教授 福田 昭宏

参加者数:136名

第4回目は循環器内科 福田 昭宏教授・副院長より「心臓を大切にしていますか?」と題して講演があり、心臓の働き、心臓の病気、治療、予防方法についての説明がありました。参加者に対して、特に食塩の摂りすぎに対する注意が求められました。

【第5回】

10月21日(土)

演 題:「加齢とともに発症する眼瞼下垂症とは」

「頭痛、肩こりに悩んでいませんか?」

講師:最高経営責任者 形成外科 教授

川上 重彦

参加者数:121名

第5回目は最高経営責任者 川上 重彦教授から「加齢とともに発症する眼瞼下垂症とは」と題して講演があり、形成外科の歴史、診療内容についての概要が解説されました。眼瞼下垂は頭痛、肩こりの原因となることから、早期の治療が薦められました。



第5回川上最高経営責任者の講演



第4回福田教授の講演

平成29年度 地域感染対策研修会

「平成29年度地域感染対策研修会」が、平成29年11月2日(木)17時30分から(社会福祉法人)水見市社会福祉協議会、当院の地域医療連携部との共催で開催されました。講師に沖縄県立中部病院感染症内科 高山義浩 先生をお迎えし、「在宅ケアにおける感染症と感染対策」2025年に備える」と題して講演がなされました。感染症と在宅ケアの連携にはコミュニケーションが大切で、医師側からの情報提供、相談しやすい関係づくりの大切さを感じました。外部からの52名を含め230余名の参加があり、講演後の質疑も活発に行われ、盛況のうちに終了しました。



第2回医療安全研修会 「笑いから学ぶ 医療安全」

「第2回医療安全研修会」が、平成29年11月9日(木)17時30分から、Wマコトの中山真さん、中原誠さんを講師にお迎えし、「笑いから学ぶ! 明るい病院をつくる笑撃思考」と題して開催されました。日本初の漫才セミナー講師として、60分間笑いが途切れることなく「コミュニケーション」のエッセンスを学ぶことができました。会場は立錫の余地もなく、別会場での参加者もあり、関心の高さがかうかがえました。明日からすぐに実行できることもあり、大いに「問題解決」につながるものと思われました。



高速道路救急・救助訓練に参加

平成29年10月3日(火)に氷見市ふれあいスポーツセンター駐車場にて、能越自動車道トンネル内での玉突き事故を想定した救急救助訓練が実施されました。訓練は、氷見方向に走行中の乗用車がセンターラインを越え、対向してきたマイクロボスに衝突し、複数の後続車が玉突きとなり、多数のけが人が出ているとの想定で実施され、消防、警察、病院関係者など96名が参加しました。当院からは、小畑医師と庄谷看護師の2名が、氷見市消防本部からの現場医師派遣要請に基づき、事故現場で消防本部や厚生連高岡病院D M A T、高岡市民病院D M A Tと連携し応急救護所での負傷者のトリアージや応急処置を行う訓練に参加しました。訓練終了後、川崎保広氷見消防長が、「能越自動車道は片側1車線の対面区間が長く、トンネルも多い。万一の際の連携が重要である」と挨拶されました。氷見市内でこのような重大事故が発生した場合、当院からの医師、看護師の救護班が先着隊となるため、初期的的確なトリアージと応急処置の重要性を再確認するとともに消防や他の医療機関などと連携を確認する良い機会となりました。



病院からのお知らせ掲示板

● 高額療養費制度をご存知ですか？

高額療養費制度は医療費の自己負担が過重とならないよう、自己負担に一定額を設ける仕組みです。加入している医療保険から「限度額適用認定証」(69歳以下)または「限度額適用認定・標準負担額減額認定書」(70歳以上の非課税世帯)の交付を受け、医療機関の窓口にて認定証を提示してください。

手続きの方法は保険者により異なりますので、保険証を確認の上、保険者に問い合わせるか、その他詳細をお知りになりたい方は、1F総合受付横の入退院センターへお越しください。自己負担限度額は所得により複数の区分があり、次の計算式により計算されます。

69歳以下の方

適用区分	ひと月の上限額(世帯ごと)
ア、年収約1,160万円～	252,600円+ (医療費-842,000)×1%
イ、年収約770～1,160万円	167,400円+ (医療費-558,000)×1%
ウ、年収約370～約770万円	80,100円+ (医療費-267,000)×1%
エ、年収約370万円～	57,600円
オ、住民税非課税	35,400円

70歳以上の方

70歳以上で住民税非課税世帯のみ、「限度額適用認定・標準負担額減額認定書」の手続きが必要となります。

適用区分	ひと月の上限額(世帯ごと)	
	外来(個人ごと)	
現役並み 年収約370万円～	57,600円	80,100円+(医療費-267,000)×1%
一般 年収約156万円～370万円	14,000円	57,600円
住民税非課税	II 住民税非課税世帯	24,600円
	I 住民税非課税世帯	8,000円

※平成30年8月に70歳以上の一部の上限額が変更になる予定です。
※食事、室料などの私費に係わるものは自己負担限度額には含まれません。

高額な外来診療を受ける方	病院・薬局などで	事前手続き
70歳未満の方	「限度額適用認定書」を窓口で提示してください。	限度額適用認定書を申請してください。
70歳以上の住民税非課税世帯の方	「限度額適用認定・標準負担額減額認定書」を窓口で提示してください。	お住まいの市区町村で「限度額適用認定・標準負担額減額認定書」の申請をしてください。手続きには保険証と認印が必要です。
70～75歳の一般の方	「高齢受給者証」を窓口で提示してください。	手続きは必要ありません。70歳になったら、市役所や加入している健康保険から高齢受給者証が送られてきます。
75歳以上で非課税世帯ではない方	「後期高齢者医療被保険者証」を窓口で提示してください。	手続きは必要ありません。

外来の高額医療費
高額療養費制度では外来診療についても、「認定証」などを提示することで、月ごとの上限額を超える分を窓口で支払う必要はなくなります。認定証を提示しなかった場合は、高額療養費の支給申請が必要です。後日、ご加入の健康保険組合などから、差額支給されます。

病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

富山マラソン2017開催!

昨今、空前のマラソンブームの中、富山マラソン 2017 が開催されました。今年は季節外れの台風の影響であいにくの雨模様でしたが、高岡市役所をスタートし富山環水公園までの 42.195km のコースを 13000 人以上の市民ランナーが参加しました。ジョギングや散歩は、誰にでもできる手軽な運動であり、健康維持には最適な方法の一つと言えます。無理のない速さと距離でマイペースを保つことが大切ですが、有酸素運動として体力の維持や筋力の維持、代謝の亢進、ダイエット効果など、我々の身体に対し多くの良い効果をもたらします。当院では、みんなで楽しく身体を動かすことを目的とした『KMU 氷見 Heart Jog 倶楽部』に数十名の職員が集い、富山マラソンへはランナー及びボランティアで十数名が参加し大奮闘しました。さあ、健康増進のためにまずは、近所のコンビニまで歩いてみるなど、少しずつ始めてみてはいかがでしょうか。



○ 土曜日の外来診療体制が充実しました ○

11月1日から土曜日の診療体制を充実させ、多くの診療科で毎週診察を行っております。今まで通り午前中のみ診察となりますが、平日と同程度の診療体制を整えました。これにより平日は仕事等でなかなか来院できない方でも、仕事がお休みの土曜日に受診できるよう利便性の向上を図りました。

また、患者さん待ち合いの混雑解消を図るため、診察室の入れ替えを行いました。これまで内科の待ち合いに於いて、患者さんが多くかなり混雑し、車椅子やストレッチャーの患者さんの通行に支障が出るなどご不便をお掛けしておりましたが、診療科ごとの患者さんの人数に応じてバランスよく診察室の配置を見直しました。

表紙について

「黒部峡谷トロロコ電車」

黒部峡谷鉄道は、大正 12 年に黒部ダム建設の資材を運ぶために作業用列車として作られ、昭和 12 年に現在の終点「樺平駅」まで開通しました。その後、昭和 28 年に観光列車として関西電力株式会社黒部鉄道が「トロロコ電車」の運行を開始しました。

現在のトロロコ電車は、黒部峡谷の宇奈月駅から樺平駅までの全長 20.1km を片道 1 時間 20 分で運行し、深く切れ込む険しい峡谷の大自然を縫うように走っています。普通客車は窓がなく開放感にあふれており、秋には紅葉とさわやかな風を感じながら壮大な風景を楽しむことが出来ます。

編集後記

マスク装着の効果

寒暖の差が刺激になって、鼻の粘膜が敏感な方は、くしゃみや鼻汁などのアレルギーに似た症状が出ます。喉の痛みや熱がないのが風邪との違いです。マスクをすれば粘膜に触れる空気が温められ、予防に効果があります。スギ花粉抗原の鼻腔内侵入回避にも効果があり、症状発現予防に有効です。セルフケア的の先制医療とも呼ばれています。

先制医療 将来罹患する可能性の高い病気をみつけ、リスクを的確に評価し、発病を予防しようとする考え。

かけはし秋号編集委員 松野 栄雄

■ 広報誌「かけはし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけはし」となることを願って命名されました。